

Title	特集I「社会学におけるモダンとポスト・モダン」に寄せて
Sub Title	
Author	熊田, 俊郎(Kumada, Toshio)
Publisher	三田社会学会
Publication year	1998
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.3 (1998.) ,p.1- 2
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集 I : 社会学におけるモダンとポスト・モダン
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-19980000-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

特集 I 「社会学におけるモダンとポスト・モダン」に寄せて

特集 I 編集担当 熊田 俊郎

本誌創刊号よりの伝統として、特集のひとつは社会学の全体像や全体的傾向を扱うものに当てるということが慣例になっている。本号の企画を委ねられて筆者がまず考えたことは、自らが受けた(当然ながら当時の時代背景のもとでの)教育と現代社会学の最新の動向との関係をどうつけられるかということである。われわれ1970年代に社会学教育を受けた世代は、否応なく日本の社会学の中堅を担わなくてはならない次期に差し掛かっている。

現代日本の社会学の歴史をたどると、1970年代は一つの集大成された時代として位置づけられるのではないか。機能主義社会学受容の完了、批判社会学をはじめとする自省、現象学の再認識、そして戦後日本固有の実証研究の一段落、等々。この時代を象徴する論点の一つに近代化論があるといつてよい。近代化論は慶応社会学の特色の一つでもある。もちろん近代化が1970年代特有のテーマであるわけではない。むしろ1950,60年代に盛んになされた議論である。ただ日本社会の右肩上がりないしその惰性の中で、近代化の光の部分と影の部分がそれぞれ研究され、われわれはその空気の中で社会学を学び始めた。そして光の部分を取ったといえる近代化論は、その後の社会学の世代交代の波の中で総括されることも無いままに古びてしまった。1970年代に教育を受けた世代が、近代化論の中の「近代」の意味を考え直してみることは意味の無いことではないであろう。このような観点から社会学では「モダンなるもの」をどう扱ってきたのかを考えてみたいと思ったわけである。

どの時代にも常に一番新しい時代がモダンなのである。ルネサンスの時代も、啓蒙主義の時代もそうである。問題は、自分の生きている時代はモダンでよいとして、どこまで遡って自分と同種の時代と認識するかである。そのためにさまざまな基準を設けてきた。社会学史上の論争の少なからざる部分は、自らと同種の社会はどの範囲かということ巡って行われた。今日のモダン、ポスト・モダンの議論もそうした側面が少なからず存在する。

本特集では、「モダン」を扱うのにリオタールもハバーマスも正面から取り上げられていない。あるいは戦後日本で「近代」を問うのに欠かせない丸山真男、大塚久雄らも直接は取り上げていない。小特集では「モダン、ポスト・モダン」を正面から取り扱うことは困難を伴う。

社会学的近代化論の概観、さらに政治社会学、経済・労働社会学、第三世界から見た社会学の観点から「モダンなるもの」を振り返ってみよう企画したのである。結局さまざまな事情で寄せられた論考は3本となった。図らずも寄稿した3名は、1970年代最後の年に法学部政治学科を同時に卒業し、80年代に大学院を過ごした者のみとなった。さらにこ

のことも「凶らずも」であるが、いずれも近代社会の装置である国民国家を問うものとなっている。「パラダイム崩壊」の時代に研究者の道を志し、教育を受けた者の問題意識が読み取れるかどうか、われわれ3名は問われている。

(くまだ としお 駿河台大学法学部)